

平成25年度採択プログラム 中間評価調査

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	P01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな)                      このかみ まこと 氏名・職名    五神 真 ・ 東京大学総長		
2. プログラム責任者	(ふりがな)                      いいづか としあき 氏名・職名    飯塚 敏晃 ・ 東京大学大学院公共政策学連携研究部・教育部 部長・教授		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな)                      しろやま ひであき 氏名・職名    城山 英明 ・ 東京大学大学院公共政策学連携研究部・教育部 教授		
4. 類型	P <オールラウンド型>		
5.	プログラム名称	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	
	英語名称	Global Leader Program for Social Design and Management	
	副題	イノベーションのための文理横断的高度博士人材養成	
6. 授与する博士学位分野・名称	「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム修了」を記した博士(公共政策)(学術)(法学)(経済学)(工学)(農学)(医学)(保健学)(情報理工学)(社会情報学)(学際情報学)(生命科学)(科学)		
7. 主要分科	(① ) (② ) (③ ) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	政治学、法学、経済学、計算基盤、情報学フロンティア、機械工学、電気電子工学、土木工学、プロセス・化学工学、総合工学、内科系臨床医学、人間医工学、ゲノム科学、社会経済農学、社会医学		
8. 主要細目	(① ) (② ) (③ ) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	政治学、国際関係論、国際法学、公法学、社会法学、民法学、理論経済学、経済政策、財政・公共経済、計算機システム、情報セキュリティ、図書館情報学・人文社会情報学、土木環境システム、土木材料・施工・建設マネジメント、生産工学・加工学、熱工学、知能機械学・機械システム、航空宇宙工学、電力工学・電力変換・電気機器、反応工学・プロセスシステム、原子力学、エネルギー学、医用システム、ゲノム医科学、経営・経済農学、社会・開発農学、血液内科学、疫学・予防医学、衛生学・公衆衛生学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	公共政策学教育部公共政策学専攻、国際公共政策学専攻、法学政治学研究科総合法政専攻、経済学研究科経済専攻、マネジメント専攻、工学系研究科社会基盤学専攻、機械工学専攻、精密工学専攻、航空宇宙工学専攻、電気系工学専攻、システム創成学専攻、化学システム工学専攻、原子力国際専攻、技術経営戦略学専攻、農学生命科学研究科農学国際専攻、農業・資源経済学専攻、新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻、医学系研究科国際保健学専攻、社会医学専攻、情報理工学系研究科電子情報学専攻、学際情報学府学際情報学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 63 名					
外国人の人数	1 人	[ 1.6 %]	女性の人数	2 人	[ 3.2 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [ 100 %]					
プログラム実施大学に属する者			63 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			56 人	そのうち、大学等以外に属する者	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者)					
飯塚 敏晃	イツカ トシキ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 部長・教授	医療経済学・ 産業組織論 博士(経済学)	プログラム企画・運営委員会、俯瞰コースワーク設計、医療経済学に関する教育と他分野と連携した研究指導
(プログラムコーディネーター)					
城山 英明	シヤマ ヒデアキ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	行政学 法学士	プログラムコーディネーター、プログラム企画・運営委員会、俯瞰コースワーク設計、行政学に関する教育と他分野と連携した研究指導
鈴木 寛	スズキ ヒロシ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	公共政策学 法学士	プログラム企画・運営委員会、俯瞰コースワーク設計、公共政策学に関する教育と他分野と連携した研究指導
岩本 康志	イワモト ヤスシ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	公共経済学 経済学博士	公共政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
田邊 國昭	タナベ クニアキ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	行政学 法学士	プログラム企画・運営委員会、産学官アフィリエイト委員会、政策分析・過程に関する教育と他分野と連携した研究指導
森 肇志	モリ タツシ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	国際法 博士(法学)	俯瞰コースワーク設計、国際組織と法に関する教育と他分野と連携した研究指導
藤原 帰一	フジワラ ケイチ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	国際政治 法学士	国際政治に関する教育と他分野と連携した研究指導
飯田 敬輔	イタダ ケイスケ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	国際政治経済 Ph. D.	プログラム企画・運営委員会、国際政治経済に関する教育と他分野と連携した研究指導
高原 明生	タカハラ アキオ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	現代中国の 政治外交 DPhil	現代中国政治および東アジアの国際関係に関する教育と他分野と連携した研究指導
久保 文明	クボ フミアキ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	アメリカ 政治外交史 博士(法学)	アメリカの政治外交および日米関係に関する教育と他分野と連携した研究指導
金井 利之	カナイ トシユキ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	行政学・ 自治体行政学 法学士	自治体に関する教育と他分野と連携した研究指導
谷口 将紀	タニグチ マサキ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	現代日本政治論 博士(法学)	俯瞰コースワーク設計、政治学・現代日本政治論に関する教育と他分野と連携した研究指導
交告 尚史	コウケツ ヒサシ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻 教授	行政法・環境法 博士(法学)	海洋管理・環境法に関する教育と他分野と連携した研究指導
岩村 正彦	イワムラ マサヒコ		大学院法学政治学研究科 法曹養成専攻 教授	社会保障法 法学士	社会保障法に関する教育と他分野と連携した研究指導
中谷 和弘	ナカタニ カズヒロ		大学院法学政治学研究科 法曹養成専攻 教授	国際法 法学士	宇宙政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
神作 裕之	カンサク ヒロユキ		大学院法学政治学研究科 法曹養成専攻 教授	商法 法学士	コーポレート・ガバナンスに関する教育と他分野と連携した研究指導
植田 和男	ウエダ カズオ		大学院経済学研究科 経済専攻 教授	金融政策 Ph. D.	金融政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
福田 慎一	フクダ シンイチ		大学院経済学研究科 経済専攻 教授	マクロ経済学・ 金融論 Ph. D.	マクロ経済学・金融論に関する教育と他分野と連携した研究指導

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
青木 浩介	アキ コウスケ		大学院経済学研究科 経済専攻 准教授	マクロ経済学 Ph. D.	金融政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
渡辺 努	ワタベ ツトム		大学院経済学研究科 経済専攻 教授	マクロ経済学・国 際金融・企業金融 Ph. D.	マクロ経済政策運営に関する教育と他分野と連携した 研究指導
大橋 弘	オハシ ヒロシ		大学院経済学研究科 経済専攻 教授	産業組織論・ 競争政策 博士(経済学)	プログラム企画・運営委員会、産業組織論、競争政策 に関する教育と他分野と連携した研究指導
中川 淳司	ナカガワ ジュンシ		社会科学研究所 比較現代法部門 教授	国際経済法学 法学博士	国際経済法に関する教育と他分野と連携した研究指導
樋渡 展洋	ヒワタリ ノブヒロ		社会科学研究所 比較現代政治部門 教授	政治経済・ 国際政治経済 Ph. D.	プログラム企画・運営委員会、政治経済・国際政治経 済に関する教育と他分野と連携した研究指導
松村 敏弘	マツムラ トシヒロ		社会科学研究所 比較現代経済部門 教授	産業組織・ 公共経済学 博士(経済学)	エネルギー政策に関する教育と他分野と連携した研究 指導
佐藤 仁	サトウ ジン		東洋文化研究所 新世代アジア研究部門 教授	開発援助論・ 資源論 博士(学術)	プログラム企画・運営委員会、国際開発論と天然資源 管理に関する教育と他分野と連携した研究指導
堀井 秀之	ホリイ ヒデユキ		大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授	社会技術論 Ph. D. (土木工学)	社会技術論に関する教育と他分野と連携した研究指導
小澤 一雅	オザワ カズマサ		大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授	建設マネジメント 博士(土木工学)	建設マネジメントに関する教育と他分野と連携した研 究指導
光石 衛	ミツイシ マモル		大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	医用工学・ 生産工学 工学博士	プログラム企画・運営委員会、俯瞰コースワーク設 計、医用工学、生産工学に関する教育と他分野と連携 した研究指導
丸山 茂夫	マルヤマ シゲオ		大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	機械工学 (分子熱工学) 工学博士	国際諮問委員会、俯瞰コースワーク設計、先端エネル ギー分野に関する教育と他分野と連携した研究指導
鹿園 直毅	シカヅノ ナオキ		生産技術研究所 教授	エネルギー工学 工学博士	エネルギー工学に関する教育と他分野と連携した研究 指導
佐久間 一郎	サクマ イチロウ		大学院工学系研究科 精密工学専攻 教授	医用工学 工学博士	医用工学に関する教育と他分野と連携した研究指導
鈴木 真二	スズキ シンジ		大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授	航空工学 工学博士	航空工学に関する教育と他分野と連携した研究指導
中須賀 真一	ナカスガ シンイチ		大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授	宇宙工学 超小型人工衛星 工学博士	宇宙工学に関する教育と他分野と連携した研究指導
松橋 隆治	マツハシ リュウジ		大学院工学系研究科 電気系工学専攻 教授	エネルギーシステム 学・環境システム学 工学博士	プログラム企画・運営委員会、産官学アフィリエイト 委員会、エネルギー・環境システムマネジメント(エ ネルギーシステム、地球温暖化)に関する教育と他分 野と連携した研究指導
古田 一雄	フルタ カズオ		大学院工学系研究科附属レジリエンス工学研究セン ター 教授	レジリエンス工学 工学博士	レジリエンス工学に関する教育と他分野と連携した研 究指導
大久保 達也	オオクボ タツヤ		大学院工学系研究科 化学システム工学専攻 教授	化学工学・プラチ ナ社会・ナノ材料 工学博士	プラチナ社会に関する教育と他分野と連携した研究指 導
藤井 康正	フジイ ヤスマサ		大学院工学系研究科 原子力国際専攻 教授	エネルギー システム工学 工学博士	エネルギーシステム工学に関する教育と他分野と連携 した研究指導
元橋 一之	モトハシ カズユキ		大学院工学系研究科附属レジリエンス工学研究セン ター兼技術経営戦略学専攻 教授	技術経営 博士(商学)	技術経営に関する教育と他分野と連携した研究指導
八木 信行	ヤギ ノブユキ		大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻 准教授	漁業経済学 博士(農学)	プログラム企画・運営委員会、農林水産業及び自然資 源の保全と利用に関する教育と他分野と連携した研究 指導
井上 真	イノウエ マコト		大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻 教授	国際森林環境学・ 資源ガバナンス論 農学博士	国際森林環境学・資源ガバナンスに関する教育と他分 野と連携した研究指導

## 15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
本間 正義	ホンマ マサヨシ		大学院農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻 教授	農業経済学 Ph. D.	農業開発経済学に関する教育と他分野と連携した研究指導
鮫島 正浩	サメジマ マサヒロ		大学院農学生命科学研究科 生物材料科学専攻 教授	林産学・バイオマス 利用科学・森林生物 化学 農学博士	バイオマス利活用推進に関する教育と他分野と連携した研究指導
加納 信吾	カノウ シンゴ		大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 准教授	イノベーション 政策 博士(学術)	プログラム企画・運営委員会、先端科学技術に関する教育と他分野と連携した研究指導
笠原 雅弘	カサハラ マサヒロ		大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 講師	ゲノム情報科学 博士(科学)	ゲノム情報科学に関する教育と他分野と連携した研究指導
武藤 香織	ムトウ カオリ		大学院新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 教授	社会学 博士(保健学)	先端医療開発に伴う倫理的法的社会的課題に関する教育と他分野と連携した研究指導
渋谷 健司	シブヤ ケンジ		大学院医学系研究科 国際保健学専攻 教授	国際保健政策 MD, DrPH	俯瞰コースワーク設計、保健政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
齊藤 延人	サイトウ ノブヒト		大学院医学系研究科 脳神経医学専攻 教授	脳神経外科学 博士(医学)	東大病院における臨床あるいはTRの実践と政策研究との橋渡しの役割
小林 廉毅	コバヤシ ヤスキ		大学院医学系研究科 社会医学専攻 教授	公衆衛生学・ 医療政策 医学博士	プログラム企画・運営委員会、公衆衛生・医療政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
坂井 修一	サカイ シュウイチ		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻 教授	安全・安心情報 システム学 工学博士	プログラム企画・運営委員会、安全・安心情報社会に関する教育と他分野と連携した研究指導
浅見 徹	アサミ トオル		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻 教授	情報通信工学 博士 (情報理工学)	社会インフラとしての情報ネットワークに関する教育と他分野と連携した研究指導
須藤 修	スドウ オサム		大学院情報学環学際情報学府 学際情報学専攻 教授	社会情報学・ 情報経済論 経済学博士	プログラム企画・運営委員会、電子政府(e-Government)に関する教育と他分野と連携した研究指導
越塚 登	コヅツカ ノボル		大学院情報学環学際情報学府 学際情報学専攻 教授	情報科学 博士(理学)	情報学に関する教育と他分野と連携した研究指導
石崎 雅人	イザキ マサト		大学院情報学環学際情報学府 学際情報学専攻 教授	専門家社会に おけるコミュニ ケーション Ph. D.	専門家コミュニケーションに関する教育と他分野と連携した研究指導
佐倉 統	サクラ オサム		大学院情報学環学際情報学府 学際情報学専攻 教授	科学技術社会論 博士(理学)	科学技術ガバナンスに関する教育と他分野と連携した研究指導
坂田 一郎	サカタ イチロウ		政策ビジョン研究センター兼 大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻 教授	科学技術産業 政策論 博士(工学)	プログラム企画・運営委員会、産官学アフィリエイト委員会、俯瞰コースワーク設計、科学技術産業政策に関する教育と他分野と連携した研究指導、国際機関のプロジェクトとの連携
河合 正弘	カワイ マサヒロ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任教授	国際経済学・ 国際金融論 Ph. D. Economics	プログラム企画・運営委員会、国際諮問委員会、国際金融に関する教育と他分野と連携した研究指導
岸本 充生	キシモト アツオ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任教授	リスク評価・ 社会経済分析 博士(経済学)	プログラム企画・運営委員会、リスク評価・管理に関する教育と他分野と連携した研究指導
西沢 利郎	ニシザワ トシロウ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 教授	国際金融・ 開発金融 MSc. in economics	プログラム企画・運営委員会、国際諮問委員会、国際金融に関する教育と他分野と連携した研究指導
芳川 恒志	ヨシカワ ヒロシ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任教授	エネルギー政策 修士(行政学)	プログラム企画・運営委員会、国際諮問委員会、エネルギー政策に関する教育と他分野と連携した研究指導
横野 泰之	ヨコノ ヤスキ		大学院工学系研究科 機械工学専攻 特任教授	熱流体工学・ 可視化情報学 工学博士	プログラム企画・運営委員会、産官学アフィリエイト委員会、産学連携に関する教育と他分野と連携した研究指導
ロベルト オルシ	ロベルト オルシ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任講師	国際政治 Ph. D.	国際政治に関する教育と他分野と連携した研究指導
砂川 武貴	スナカワ タケキ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任講師	マクロ経済学、 金融政策 Ph. D.	プログラム企画・運営委員会、マクロ経済学に関する教育と他分野と連携した研究指導
華井 和代	ハナイ カズヨ		大学院公共政策学連携研究部・教育部 公共政策学専攻 特任助教	紛争研究・ 平和教育 博士 (国際協力学)	プログラム企画・運営委員会、グローバル正義論に関する教育と他分野と連携した研究指導

## 16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 *(今後の募集予定:有)
プログラム募集定員数(実数)		65人	50人	36人	25人
① 応募学生数		60人	73人	73人	39人
	うち留学生数	22人	30人	21人	20人
	うち自大学出身者数	21人(2人)	21人(1人)	31人(3人)	12人(0人)
	うち他大学出身者数	39人(20人)	52人(29人)	42人(18人)	27人(20人)
	うち社会人学生数	8人(5人)	19人(14人)	18人(8人)	6人(5人)
	うち女性数	17人(5人)	16人(6人)	15人(3人)	7人(3人)
② 合格者数		36人	41人	32人	20人
	うち留学生数	11人	12人	8人	10人
	うち自大学出身者数	17人(2人)	14人(0人)	18人(0人)	6人(0人)
	うち他大学出身者数	19人(9人)	27人(12人)	14人(8人)	14人(10人)
	うち社会人学生数	5人(2人)	9人(6人)	8人(5人)	4人(3人)
	うち女性数	11人(3人)	16人(6人)	10人(3人)	4人(2人)
③ ②のうち受講学生数		34人	36人	28人	20人
	うち留学生数	11人	10人	7人	10人
	うち自大学出身者数	16人(2人)	13人(3人)	15人(0人)	6人(0人)
	うち他大学出身者数	18人(9人)	23人(7人)	13人(7人)	14人(10人)
	うち社会人学生数	5人(2人)	8人(5人)	8人(5人)	4人(3人)
	うち女性数	10人(3人)	15人(5人)	10人(3人)	4人(2人)
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第三位を四捨五入)		1.67倍	1.78倍	2.28倍	1.95倍
充足率(合格者数/募集定員)		55.00%	82.00%	89.00%	80.00%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度\*(今後の募集予定:有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成25年度選抜	13	9	11	0	0	33	0	13	8	10	0	31	0	0	11	9	9	29	0	0	3	10	16	29		
うち留学生数	4	2	5	0	0	11	0	4	2	5	0	11	0	0	4	2	5	11	0	0	3	2	6	11		
うち自大学出身者数	7	5	4	0	0	16	0	6	5	3	0	14	0	0	5	5	3	13	0	0	1	4	8	13		
うち他大学出身者数	6	4	7	0	0	17	0	7	3	7	0	17	0	0	6	4	6	16	0	0	2	6	8	16		
うち社会人学生数	0	2	2	0	0	4	0	1	1	2	0	4	0	0	1	2	1	4	0	0	0	3	1	4		
うち女性数	3	3	3	0	0	9	0	3	3	3	0	9	0	0	2	4	2	8	0	0	0	4	4	8		
平成26年度選抜							18	7	10	0	0	35	0	13	5	8	0	26	0	3	11	7	5	26		
うち留学生数							4	1	5	0	0	10	0	3	1	3	0	7	0	1	2	3	1	7		
うち自大学出身者数							8	2	3	0	0	13	0	5	2	3	0	10	0	0	5	2	3	10		
うち他大学出身者数							10	5	7	0	0	22	0	8	3	5	0	16	0	3	6	5	2	16		
うち社会人学生数							2	1	5	0	0	8	0	1	1	3	0	5	0	0	1	3	1	5		
うち女性数							6	4	4	0	0	14	0	5	3	2	0	10	0	2	4	3	1	10		
平成27年度選抜													16	2	10	0	0	28	0	18	4	6	0	28		
うち留学生数													2	1	4	0	0	7	0	3	3	1	0	7		
うち自大学出身者数													13	0	2	0	0	15	0	13	1	1	0	15		
うち他大学出身者数													3	2	8	0	0	13	0	5	3	5	0	13		
うち社会人学生数													2	1	5	0	0	8	0	3	1	4	0	8		
うち女性数													6	0	4	0	0	10	0	6	1	3	0	10		
平成28年度選抜																			10	5	5	0	0	20		
うち留学生数																		6	1	3	0	0	10			
うち自大学出身者数																		4	2	0	0	0	6			
うち他大学出身者数																		6	3	5	0	0	14			
うち社会人学生数																		1	0	3	0	0	4			
うち女性数																		3	0	1	0	0	4			
計	13	9	11	0	0	33	18	20	18	10	0	66	16	15	26	17	9	83	10	26	23	23	21	103		
うち留学生数																							35			
うち自大学出身者数																							44			
うち他大学出身者数																							59			
うち社会人学生数																							21			
うち女性数																							32			
修了者数(予定者を含む)	0						0						0						21						22	21
就職者数	0						0						0													
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数	17						31						47						19(S1科目のみ)							

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

(機関名:東京大学 類型:オールラウンド型 プログラム名称:社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム)

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数  
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成25年度選抜	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1		
うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1		
うち社会人学生数	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1		
うち女性数	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1		
平成26年度選抜						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
うち留学生数						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
うち社会人学生数						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数						1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1		
平成27年度選抜											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち留学生数											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち社会人学生数											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数											0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
平成28年度選抜																0	0	0	0	0		
うち留学生数																0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数																0	0	0	0	0		
うち他大学出身者数																0	0	0	0	0		
うち社会人学生数																0	0	0	0	0		
うち女性数																0	0	0	0	0		
計	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2	0	1	1	0	2	0	0	1	1	2		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				2		
うち社会人学生数																				1		
うち女性数																				2		
修了者数(予定者を含む)			0					0					0					1			1	0
就職者数			0					0					0									
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数			0					0					0					0				

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

## リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

**【プログラムの概要】**現代社会においては、構造変化を伴う経済社会的ニーズ、複合的に作用するシステムリスク、世界的な環境のダイナミックな変容等を背景とした様々な社会的課題群が存在している。このため、潜在的なものも含め、そうした課題群を適切かつ早期に認識し、様々な専門的知見を組み合わせることで解決策の選択肢を構築し、選択肢の中から社会的合意形成を図りながら実際に選択を行い、更に、グローバルな視点を持って、それを迅速に展開することが求められている。社会の超高齢化と社会保障制度の不安定化、大規模災害の頻発、地球環境の持続性への懸念、東アジアの政治情勢の不安定化は、そのような課題の要素の代表例である。今日、様々な局面において、こうした諸課題の認識から解決策の実装までの一連の流れをリードできる人材の必要性が高まっている。

本プログラムでは、高い倫理観のもとに、社会が直面するグローバルレベルや国レベルの課題を的確かつ早期に捉え、これに対して、多様な専門知識を統合し、社会的リソースを組織化して解決に導くことの出来るようなリーダー人材(近い将来、「**世界や国のドライバーズシート**」を託せる**高度博士人材**)を養成することを目的とする。このような課題解決には、文理横断的なイノベーションが不可欠である。公共政策は社会科学に閉じた課題ではなく、理系との幅広い連携の下に、先端的科学技術の理解を踏まえて検討されるべき課題である。また、イノベーションを創出・実装することによって産業界から社会を牽引することのできる人材も、このような人材の重要な部分である。

**【プログラムの特色】**上記の人材を育成するため、本プログラムでは、課題を発見し解決する力、深い教養と倫理観、競争を勝ち抜き意志、ニーズを感じ取る知性と感性、自ら学ぼうとする意志と旺盛な好奇心、高いコミュニケーション能力は高度博士人材として当然ながら涵養し、拠り所となる尖った専門知識を一つ以上持つことに加え、さらに、(1)**水平展開力**(分野横断的で論理的な文理双方の確固とした知識基盤)、(2)**設計力**(アジェンダセッティング能力や技術・制度・政策を総合的に設計する能力)、(3)**行動力**(大胆なグローバル発想、課題解決実行をマネジメントできるプロジェクトマネジメント能力、英語をベースとする訓練されたコミュニケーション能力、多様な人材を率いる人間性と決断力を持ったリーダーシップ)の**3要素**を備えた人材を育成する。この目的を達成するため、本プログラムは、**本人の選択により専門分野の知識基盤を一つ以上しっかりと身に付けさせつつ、横断的知識の統合、統合された知識に基づく社会システム設計、グローバルな場における課題解決の実践等の能力を養う機会を重視した**ものとする。本プログラムには、**分野横断的な政策・戦略という切り口の下で、多くのルートで適性を持ったトップレベル人材を、年齢、バックグラウンド等を問わず世界中から発掘し入学させる。いわば「人材のるつぼ」の環境下で、先に挙げたような能力形成を行っていくのが本プログラムの特色である。**このようなプログラムを通して、国家運営上重要な政策立案をリードできる人材、国益を代表して世界の舞台で厳しい交渉を担う人材、国際機関や民間シンクタンクの幹部として世界的な議論をリードできる人材、多国籍の大型プロジェクトをリードし産業界を活性化することのできる企業人材、高い専門的知識・能力と俯瞰的視座および実務的能力を持つ先端的研究者を養成する。

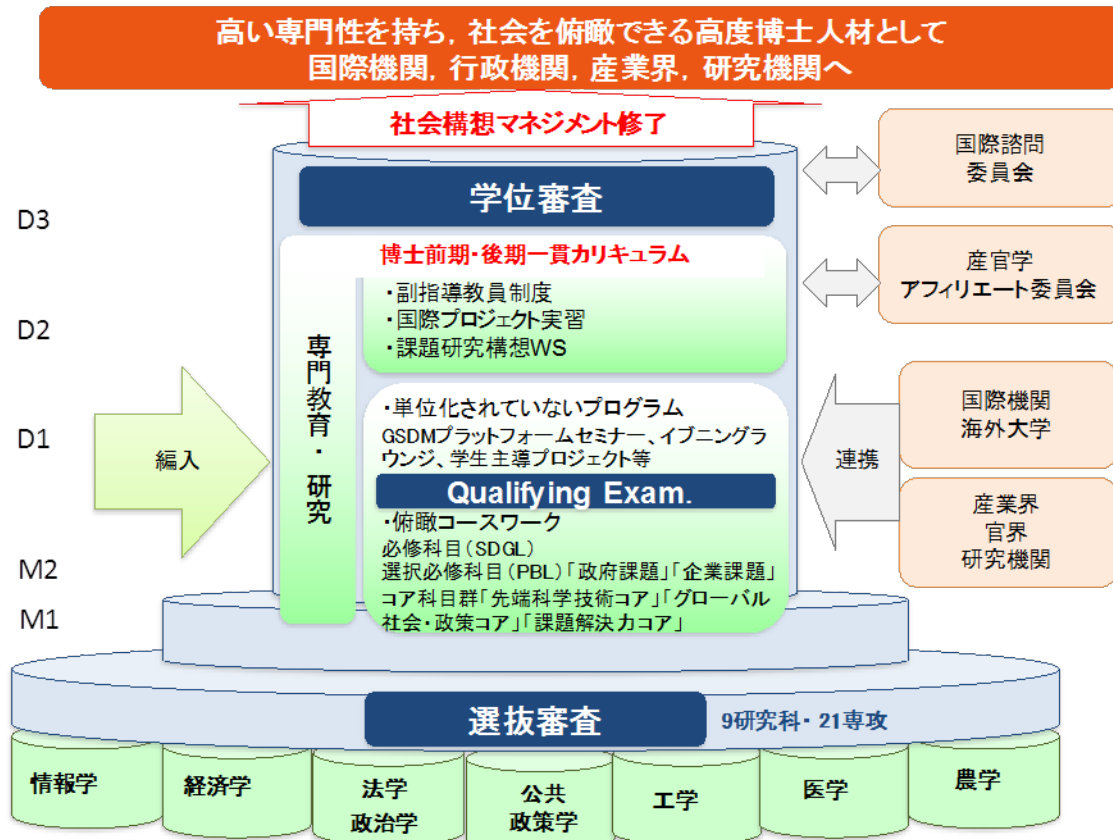
以上のようなプログラムを実効的なものとするために、その基盤として、博士の学位を授与するに足る、**部局を超えた強い文理横断的連携組織を構築**する。この連携組織を中核に、関係部局が持つ海外の大学、国際機関とのネットワークも集約する。また、教育プログラムについては、俯瞰的コースワーク(先端科学技術コア、グローバル社会・政策コア、課題解決力コア)、課題研究構想ワークショップ、学生主導のセミナー開催やプロジェクト実施、国際プロジェクト実習への参加、副指導教員等のチーム型指導体制による、主専攻での研究と社会的課題に関するサイドペーパーの執筆および博士論文執筆から構成される。最終的には、博士学位論文審査と修了審査が行われることになる。また、学生が本教育プログラムと研究に集中できるように、奨励金を導入する。

**【プログラムの優位性】**東京大学では部局を横断した教育実績として、これまで、「**部局横断型教育プログラム**」(科学技術イノベーション政策の科学、ジェロントロジー、海洋学際教育等)を実施している。また、**分野横断、課題解決型の研究を、政策ビジョン研究センター、知の構造化センター等の全学的機構を設置する等して推進**してきており、教員が仕組みや知見・ノウハウを有している。**公共性の高い課題解決に関するグローバルなリーダー人材の育成**に関しては、東京大学では、これまでも多数の国家公務員をはじめ社会において公共政策の形成や実施に携わる人材を輩出してきた(平成25年184名、平成26年159名が国家・地方公務員として就職)。さらに、**公共政策大学院**では、修士レベルでダブル・ディグリー制度や英語のみによる修了が可能な国際プログラムコースを設置して、将来の各国のリーダーとなりうる人材を育成してきた。また、東京大学は、これまでに9件のリーディング大学院を各部局の連携の下設置、運営してきており、大学院博士課程の教育改革に実績を有する。本プログラムは、このような東京大学における様々な実績を結集して行われる点で、高い実行可能性を有する。また、公共政策大学院や工学系研究科等における実績を基礎に主として英語でプログラムを提供する点でも優位性がある。

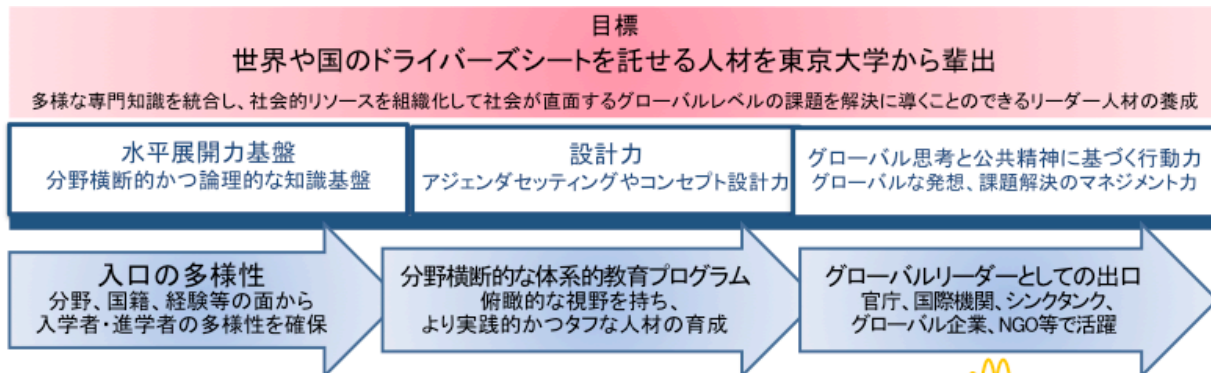


学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム」



養成プログラムの特徴－組織とテーマ例

<p><b>学内各部局の連携による教育プログラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内連携各部局から、本プログラムの履修生を選抜し、5年一貫教育を行う。</li> <li>学内連携各部局のネットワークによる協力体制の下、公共政策大学院の中に博士課程を設置し、それを連携のハブとする。</li> </ul>	<p>国際諮問委員会</p> <p>産官学アフィリエイト委員会</p> <p>課題解決テーマ例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー安全保障と温暖化対策を見据えたエネルギー技術政策</li> <li>個別化医療や再生医療等の実用化を可能にする総合的な社会システム</li> <li>世界的金融リスク等複合リスクを効果的に管理するシステム</li> <li>安全保障や海洋資源管理における宇宙の利用、サイバーセキュリティの確保など</li> </ul>
<p><b>分野横断的な体系的教育による人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員チームによる指導→国際プロジェクト実習を踏まえ、多様な課題を解決する水平展開力修得。</li> <li>国際プロジェクト実習→専門性ととも社会課題を踏まえて研究を構想・設計・交渉・発信力修得。</li> <li>分野俯瞰型コースワーク→先端科学技術、社会・政策に対する俯瞰的な理解、異分野間協力を伴う実践的課題解決力修得。</li> </ul>	
<p><b>多段階による学位の質の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期課程入学後に選抜審査を実施する。</li> <li>前期課程1年目終了までに、Qualifying Examを行う。</li> <li>後期課程では最終審査と博士論文審査を実施する。</li> </ul>	